

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(保健体  
育) / 乾 信之

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

①授業内容: 個々の動作とスポーツの制御と学習について述べながら、様々な動作とスポーツに共通な制御と学習のメカニズムを述べる。

教科教育学的には体育の教授-学習過程を知覚-運動学習の観点から述べる。

②授業方法: 講義では発問を多用し、学生の参加を促進する。また適宜、代表的な実験のデモンストレーションを行う。実技では学生に記録を集計させて発表される。

③成績評価: 講義は指定図書の読書感想文の提出を受験資格とし、試験の点数で成績を評価する。実技は出席とパフォーマンスで成績を評価する。

#### 2. 点検・評価

後期の「運動学」では「社会脳とは何か」新潮新書の読書感想文を課して添削し、講義と実技に充実していた一年であった。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

博士課程の院生:すでに7篇の論文があるので、博士論文の作成を指導する。  
修士課程の院生:小学校での身体イメージの実験と修士論文の作成を指導する。  
学部4年生:ひとは教職志望なので教採の勉強を促進し、もうひとは大学院進学志望なので、引き続き実験研究を指導する。

#### 2. 点検・評価

11月のスポーツ心理学会では、個人間運動におけるリーダーとフォロアーの関係の発表を指導し、卒論、修論、博士論文の指導に充実した一年であった。

### Ⅱ-2. 研究

#### 1. 目標・計画

すでに行っている身体イメージへの道具の参入と身体イメージにおける視覚と固有感覚の相互作用の実験を論文にする。

#### 2. 点検・評価

11月のスポーツ心理学会では、身体イメージにおける視覚の影響を発表し、論文作成とモノグラフの執筆に充実した一年であった。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

学部教務委員と2年生の担任。

### 2. 点検・評価

上記のように、学内事務を遂行した。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

(独)日本学術振興会の科学研究費委員会専門委員。

### 2. 点検・評価

120件の科研費審査を行った。  
内外の論文の査読を10件以上行った。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

教育, 研究, 学内事務, 科研費審査, 論文の査読に充実した一年であった。